



磐州郡山総鎮守「安積国造(あさかくにつこ)神社にて(2月22日総代会研修)

富の神明さま

発行所
三富、富岡総鎮守
神明社
社報第5号
〒359-0002
所沢市中富1507
社務所電話
04-2943-1709
宮司宅電話
049-259-2228

新年のご挨拶

宮司 林 伊佐雄

新年明けましておめでとうござい
ます。新春にあたり氏子崇敬会の皆様方のご
多幸とご健勝をお祈り申し上げます。
昨年は、天皇陛下御即位二十年、そし
て天皇后陛下御結婚五十年の慶賀の年
でした。十一月十二日には、御即位二十
年をお祝いする奉祝行事が華やかに行わ
れました。陛下には先帝陛下の御心を旨
とし、祭祀を厳修され、また我が国の発
展と国民の安寧のためお尽くしになられ
た二十年であつたとご推察いたします。
平成21年歌会始(お題「生」)では次
のように詠まれています。

御製(天皇陛下のお歌)

生きものの織りなして生くる様(さま)
見つづ皇居に住みて十五年経(へ)ぬ

皇后陛下御歌

生命(いのち)あるもののかなしさ

★月の原日記★

★彩の国 歴史ウォーキング

彩の国 歴史ウォーキングの
コースの訪問地の一つとして当社
のいも神様の取材がありました。
県内の歴史的建造物や旧跡、伝
統芸能や有形無形の文化財、伝統
工芸などを訪ねる番組です。
ウォーキングインストラクター
第1号の奥野清歩さん(右)と及
川やよいさん(左)が、当社を訪
れ、いも神様について由緒や当社
との関わりについてお話しさせてい
ただきました。

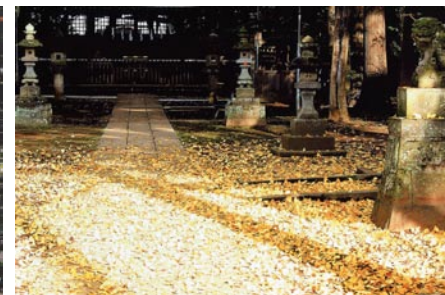


「撫でいも」を撫でる及川さん、奥野さん

★神明社の写真募集

近年、お隣の多聞院をはじめ、
当神明社の境内の四季折々の風景
を撮られている、写真愛好家の姿
を時々見受けることがあります。

左の写真は、三芳町在住の牧英
雄さん撮影の写真です。偶然、文
化祭で展示されているの拝見して、
拝殿、社務所に掲示させていただ
くことにいたしました。



銀杏の葉で輝く境内

ご関
心
ある
方
は、宮
司
宅まで
ご
連
絡
下
さい。



朝日差す奥宮

★全国宮司研究会

三月二十四、二十五日の二日間
にわたり、教化モデル神社に指定
を受けた全国の宮司の研究会が開
催されました。当社は昨年三月に
指定が終了しましたが、三年間の
事業活動の報告と次期三年間指定
を受けた宮司との意見交換会もあ
りました。

それぞれの指定神社が、それぞ
れの環境や歴史の中で様々な活動
を行っており、大変参考になりま
した。今後の活動に活かしていき
たいと考えています。また、埼玉
県では、行田市の前玉神社が次期
指定を受けました。



全国教化モデル神社宮司研究会

★ホームページ開設しました

教化モデル神社事業の一つであ
る、当社のホームページが完成し、
開設いたしました。

当社の由来や、いも神様につい
ても紹介させていただいています。
特に、いも神様については「富の
いものはじまり」吉田弥右衛門物
語」として、作成した紙芝居に音
声を吹き込みました。

神社やお祭りの情報発信と氏子
の皆様方との意見交換の場として
も活用したいと考えています。開
設したばかりで不備な点多々あ
ろうかと思いますが、メール等
でご意見をお寄せいただけたらと思
います。尚、アドレスは、紙面上
部に記載してあります。



出来上がったホームページのトップページ

早春の光のなかに揺り蚊(ユスリカ)の
舞ふ

今年のお題は「光」ですが、大御心を
いただきながら今年一年の「生」を大事
にしたいと思います。大御代の更なる弥
栄と平安をお祈り申し上げます。

さて、当神明社は、平成十八年から三ヶ
年に亘り神社本庁より埼玉県で「第
十一期神社振興対策教化モデル神社」の
指定を受けました。

昨年三月には、無事指定期間が終了し、
神社本庁において全国指定神社宮司の報
告会が開催され、三ヶ年の活動の成果を
確認し合うことができました。他社の取
り組みも参考にさせていただきましたが、
今後社頭の発展と氏子の皆様の弥栄のた
めに初心にかえり、神明に奉仕をさせて
いただきたいと思います。

また、平成二十五年に第六十二回の伊
勢神宮の式年遷宮が行われます。遷宮に
向けて諸祭儀、諸準備も順調に執り進め
られている様子です。今後、日本の心
の故郷であるお伊勢さまへの参宮も遷宮
にあわせて行う予定です。

今年も社頭繁栄のために取り組んで参
ります。これまで以上にご指導ご鞭撻を
宜しくお願い申し上げます。



総代会会長
阿部 征一

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
氏子並びに崇敬会の皆様には、

健やかに新しい年をお迎えいただいたものと慶び申し上げます。

さて、昨年は、天皇陛下御即位二十年の慶賀の年であり、全国で奉祝行事が行われました。皇室の発展と天皇陛下のご健勝を心からお祈りしたいと思います。

ただ、政権が変わり、陛下への不遜の発言や政治利用と解釈されかねない外国の賓客と会われる場合の「一ヶ月ルール」が破られ、現政権の皇室に対する対応には憂慮しております。

私達神社人の使命として、日本の文化、伝統の中心でもあります皇室を、しっかりとお守りしていなくてはいけないと強く感じているところでございます。

本年も、少しでも社頭発展のために尽力させていただく所存でございますので、皆様方のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

平成二十一年 総代会研修旅行記

『神と酒と俳句の道を訪ねて』

総代会副会長 鈴木 平一

恒例の神明社氏子総代会の研修旅行が、今年も例年同様に去る二月下旬（二十二〜三日）に、一泊二日の行程で、総勢二十余名の参加を得て行われました。

今回の研修先は、福島県域の奥州路、あの「奥の細道」周辺でした。その主たる目的は、わが神明社の御神酒「富乃神明」の醸造元である酒蔵「笹の川酒造」の工場見学と、この「笹の川酒造」の社長さんが総代を務めております磐州郡山総鎮守「安積国造（あさかくにの）神社」の参拝でありました。更に加えて、俳句で有名な「奥の細道」のゆかりの地、須賀川市の「芭蕉記念館」に立ち寄りさせていただきました。

風流の はじめや奥の

田植唄（芭蕉）

の名句に導かれて、風流の世界を覗き見たあと、この夜の泊まりは、会津若松の「庄助の宿」でした。やはり、風流の究めは、温泉で



御神酒芋焼酎「富乃神明」の醸造元「笹の川酒造」を見学（福島県郡山）

す。酒です、唄です、宴会です。会津の山ふところに抱かれて、楽しい宴の一夜は更けていったものでした。かくして翌日は、南会津、大内宿の宿場見学等を経て、一路無事、帰着したのでした。日頃より、神社に奉仕するご一行に、益々のご神恩と弥栄を念じつつ回想を終わります。

★婦人部活動報告

明治神宮正式参拝

九月二日、婦人部の事業として明治神宮の正式参拝を実施しました。

神宮内・外苑一帯にわたって鬱蒼と茂った緑したたる常磐の森は、御鎮座にあたり、全国から献木されたおよそ十万本、三六五種の人工林で、面積は七十万平方メートル。森厳な杜の中の玉砂利を踏みしめながら、厳粛な気持ちで正式参拝をしました。

参加者の中には、はじめて明治神宮にお参りされた方もいて、お祀りされている明治天皇と昭憲皇太后のご神恩にふれることができたことと喜ばれていました。

その後は、表参道ヒルズでランチ、原宿でのショッピングと楽しい一時を過ごし、親睦を深めることができた一日となりました。



という助言によって薩摩藩の大山巖が「歌詞は古歌から選ぶべき」と愛読していた「君が代」を選んだということ。

◎日本国の象徴とは？

憲法第一条に「日本国の象徴であり日本国民統合の象徴」とあります。象徴というのは新渡戸稲造が「武士道」の中で、天皇は象徴（symbol）と説明したのを、GHQが援用したものです。

桜を見ると春を感じ、富士山を見ると日本を感じるといったのが象徴です。ですから日本国の象徴とは、天皇を見た時に、伝統、文化、歴史、国土、国民、民族そうしたものを全部包括した「日本」を感じるということ。

日本はおよそ二千年間、そのような存在を大切に守ってきたので

皇室へのソボクなギモン

御神が、孫のニニギノミコトに「この豊葦原瑞穂の国を

天皇陛下が御即位二十年を迎えられました。皇室についていくつかの疑問にお答えしたいと思います。

◎天皇家と神道の関係は？

神道は、日本古来の民族的な宗教です。欧米の一神教のような開祖、教義、教典はなく、山や小川や木、竈など万物に目に見えない神が宿ると考え、先祖を大切に敬う信仰です。縄文時代の原始日本人が持っていたアニミズム的信仰を大和朝廷が大切に守りながら育て、現在に伝えられてきたのが神道です。そして、天皇は、全日本人に代わって天照大御神を祭り、五穀豊穡、国民の幸せ、世界の平和などをひたすらお祈りになる存在でした。

◎万世一系とは？

天皇や皇室の永遠性を表す言葉。初代・神武天皇から第百二十五代・今上天皇まで一貫して男系で受け継がれています。

◎天孫降臨とは？

日本の皇室の始まりは、神話の中の「天孫降臨」に遡ります。皇祖神（皇室のご先祖）天照大

孫が初代・神武天皇になり、現在まで一系統が続いてきました。神話には北欧神話やケルト神話もありますが、神話を自分の物語とし受け継いできた人たちはもういません。日本は、神話の世界が現実のものとして生活のなかに生きている唯一の国なのです。

◎宮中祭祀とは？

宮中で天皇が主宰されて行われる祭祀。起源は、「日本書紀」に記されている「神勅」に求められます。天照大御神が天孫降臨にあたって天孫に授けた鏡を「この宝鏡を私（天照大御神）だと思つて宮中に祀るように」とあります。また、宮中祭祀の第一の祭典で

ある新嘗祭も高天原の斎庭の稲穂を授けて「食物として地上で栽培するように」という神勅に基づいています。

天皇は、お祭りの際には必ず身を清めて、清浄な装束をつけてご奉仕されています。大祭、小祭や臨時祭、また毎月一日、十一日、二十一日に行われる旬祭を含めると、年間六十回余になります。皇后陛下が妃殿下の頃、皇太子殿下が、一年で最も重要な新嘗祭から戻って来られた時の御歌に

新嘗の み祭果てて 還ります
君のみ衣 夜気冷えびえし

とあり、「国やすかれ、民やすかれ」とこうした天皇による祈りが二千六百余年も続いています。

◎「君が代」の由来は？

原歌（もとうた）は古代にまで遡りますが、初見は古今和歌集。「わが君は 千代にましませ さざれ石の いはほとなりて 苔の むすまで」よみ人しらずで長寿を祈る歌です。「わが君」は「天皇」という意味ではなく、自分にとって敬愛すべき相手のこと。古代から愛誦され、千年以上庶民にうたい継がれ、明治になってイギリス人の軍楽長の「国歌を作るべき」



旧皇族竹田家、明治天皇の玄孫
竹田恒泰氏による皇族に関する著書